

日本学術会議主催学術フォーラム

生きる意味－ウェルビーイングとリベラルアーツ－

日本学術会議の政府・産業界政府・産業界連携分科会は、大学と産業界両方の関係者が対等に議論し、近未来へ向けて双方が納得し推進できる提言を2018年11月に発表し、この提言をもとに、昨年3月から10月にかけて3回のシンポジウムと学術フォーラム開催、産学共創のあり方、人材育成、ベンチャー・インキュベーション議論してきた。これらを受け、これからの社会のあり方を考える際に重要となる生きる意味について、ウェルビーイングやリベラルアーツに焦点をあてて議論する学術フォーラムを今期のまとめとして開催する。これまで、理工学の提案に人文社会科学が関わる形で学術フォーラムやシンポジウムを開催してきたが、今回は哲学を中心とした人文学の考えに生命科学や理学・工学が関わる立場で議論する。。

日時：2020年9月20日（日） 13:00－17:00

場所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木7-22-34）

お申込み：[URL](#)を後日記入

参加費：無料

プログラム：

問題提起 山極壽一（日本学術会議会長、京都大学総長）

講演1 希望学を必要とする社会 玄田有史（東京大学教授）

講演2 生きるための数理哲学 出口康夫（京都大学教授）

講演3 宗教学から考える世界 藤原聖子（東京大学教授、第一部会員）

講演4 AIが創る未来社会 粕谷昌宏（株式会社メルティン MMI）

コメント

パネル討論